

令和2年度米沢市農業委員会農業者との意見交換会回答

No.	ブロック	開催日時	開催場所	参集者
1	第1（万世、山上、上郷）	11月27日（金）	J A山形おきたま米沢東出張所	農業者10名、農業委員5名、推進委員3名、J A1名、米沢市農林課1名、農業委員会事務局2名 計22名
2	第2（旧市、上長井、南原、三沢）	11月25日（水）	J A山形おきたま米沢支店	農業者7名、農業委員7名、推進委員7名、J A一名、米沢市農林課1名、農業委員会事務局2名 計24名
3	第3（窪田、広幡、六郷、塩井）	11月30日（月）	J A山形おきたま米沢北出張所	農業者9名、農業委員5名、推進委員4名、J A1名、米沢市農林課2名、農業委員会事務局2名 計23名
				農業者26名、農業委員17名、推進委員14名、J A2名、米沢市農林課4名、農業委員会事務局6名 計69名

凡例 ○意見交換会での要望・意見 ◎意見交換会での農業委員、推進委員、市からの回答

項目	種別	発言要旨	ブロック	担当課	備考
要望・意見	1 農地の集積集約化	<p>○今日の参集者で、今後はもう農地を借りなくてもいいと思っている方はいるか？自分達の年代は5～6年位でリタイアとなるが、農地を誰か借りてもらえるのか不安はある。既に農家をやめたいという相談も受けている。農地の集約等もあるが、できれば頑張っている人に農地の借受けをお願いしたい。</p> <p>○万世地区は、梓山から東が区画整理されていない。部分的に不耕作地が出てきている。山の方にいけばクマやイノシシが出てくる。川沿いに電柵をしているが、上の方からだんだんと荒れてきている。年令だけでなく健康面でも農家をやめる人は増える。万世地区はこれ以上農地を荒らさないのが目標となっている。</p> <p>○山上地区は、片手で数えるほどしか若い農業者がいないので今後が不安。後継者も2～3人位しかいない。農地を荒らさないで耕作できるかが課題。</p> <p>○上郷地区は他地区より若い農業者がいるので、10年後も何とかなるかもだが。農地の集積は進んでいるが、今後は集約化が必要。これからの農業（スマート農業等）で考えなくてはならない。</p> <p>○米が余り減反も増えるし米価も下がる。政治的にやりがいのある農業を考えてほしい。</p>	第1		
	2 人・農地プラン	<p>○人・農地プランでアンケートなど行っていたが、内容をいつ引退を考えているかなどを質問してはどうか？</p> <p>◎意向調査については、人・農地プランを発足して大分経ちます。本来は毎年、農家の意向を調査するよう国の指導がありますが、農家の負担が大きいため今は休んでいる状態です。実施に向けて、農業委員、推進委員の協力をいただきながら、調査するための段取りが必要かと思っています。これまでの人・農地プランは、旧市町村単位で行っていたため、大きな単位で集まることになり、なかなか本音で話し合うことがなく、集まってもらっただけで終わることがありました。小さな単位で集まってもらい、回数を重ねることによって道筋ができていくものだと思います。農業委員、推進委員と共に農林課としても取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>米沢市は集落営農が遅れており、昔は機械組合が各地区にありましたが、ドリームさんのような受託組織となって新たな体制となっています。出された意見のように「核となる組織を活用して集落営農のような発展を遂げられないか」などの話し合いができればありがたいと思っています。</p>	第3		

項目	種別	発言要旨	ブロック	担当課	備考
要望・意見	3 後継者確保	<p>○経営移譲を考えているのでアドバイスをもらっている。税関係も含めて手引書（マニュアル）等はないか。</p> <p>◎調べてみて、何かいいものがあればお届けしたい。</p> <p>○息子がいるが、自分が若かった頃とはだいぶ状況が違う。同年代の農業者の仲間が少なく、やっていけるのか。新規就農者をいかに集めるかが大事。いきなり米農家は基盤がないと無理と思う。野菜・園芸等からの経営で呼びかけが必要ではないか。今のうちから考えないと大変になる。農業委員会でも催し物（イベント）等をやったらどうか。婚活も同様に必要だ。</p> <p>○他県等での状況はどうなっているのか。</p> <p>◎米が主ではなくなっている農家（レタス等）が増えていると思う。米が主の経営について話をしようとしても合わなくなっている。</p>	第1 第1		
	4 次世代人材投資資金	<p>○次世代投資資金の交付額は今後も前年所得で減額されるのか。</p> <p>◎前年所得が 100 万円を超えると交付額 150 万円から減少していき、前年所得が 350 万円になると交付されなくなる。</p> <p>○がんばって所得を増やすと翌年の交付額が減るのは、やる気につながらないのではないか。固定で 150 万円にならないものか。</p>	第1		
	5 新規就農	<p>○親が米の経営で、子も米の経営をする場合は新規就農の補助金対象外だったが、今後は対象になるようなので、後継者も何とか増えてほしい。</p> <p>○新規就農して米を作ろうと規模を拡大すると設備投資が大変になる。そのため、他の部門をやっている。作業が集中しないよう合間合間にやっていく必要がある。新しく入ってきた人が常に何かやれる仕事を考えないと。まずは最初の数年やっていけるように農業委員会でもアドバイスを。（安定した仕事、収入を）</p> <p>◎昨年、自分の甥が新規就農した。他県で料亭に勤めていたが辞めて、他業種に転職でも勤めればいいのか、と言うも農業を選んだ。南陽から米沢に通っている。非農家で機械等何もなかった。自分のをあてにしていたかもしれないが…。無農薬栽培をしているが、自分が手伝ったことはほとんどない。資材は使ってもいいとは言っている。出荷は主に以前勤めていた料亭にしている。1 人での作業が大変なときは、奥さん等に手伝ってもらっている。家族以外には頼っていない。冬の仕事をどうするか考えているようで、ハウス栽培をしようかと考えているようだ。作業を見ていてわかるが、虫や病気の対応は大変だ。スマホ等で情報収集しながらやっているようだ。</p> <p>○国の方針は新規参入を増やす方向なのか、それとも既存の農家の後継者を増やす方向なのかどちらなのか。</p> <p>◎新規参入者が増やすのはもちろんだがそれに特化しているわけではなく、後継者も増やしていく方針である。新規参入はリスクが伴うため、新規参入者に対して手厚い補償をしておき、新規参入者を優遇しているように見えるが、新規参入者と後継者どちらも増やしていく方向である。</p> <p>○新規参入した時の経験から言わせていただくと、新規参入後 2～3 年はかかる経費の 5 分の 1 程度の補助をした方が新規参入者は増えると思う。現在南原で 1 人新規参入を考えているが、農地を集めるためのあっせんについては市や農業委員会でどう考えているのか。</p> <p>◎農業委員・農地のあっせんについては農業委員の業務なので相談してほしい。</p>	第1 第2		

項 目	種 別	発言要旨	ブ ロ ック	担当課	備考
要望・意見	5 新規就農	<p>○花卉農家として新規就農した方がいる。花卉はなかなか難しいので、花卉農家の方がいればアドバイス等してほしい。</p> <p>◎現在果樹を作っているが、新規参入で果樹は難しい。収穫までに時間がかかるし、技術の習得にも時間がかかる。果樹については親元就農に力を入れてほしい。農業を始めたい方に農地を貸して耕作してもらったが、途中でダメになってしまい、農地を元に戻す必要が出てしまった。新規就農をしたい方がいれば、果樹や稲作は難しいと思うので、ノウハウがある野菜や花などを勧めてもらえと思う。</p> <p>○親元就農ではなく、新規就農者で5年以上農業をやっている方が何人いるのか、何を作っているのか、米農家はいるのかを教えてください。</p> <p>◎米農家はいない。新規就農者は野菜や蕎麦農家である。</p> <p>○新規参入するとき米農家を目指していたが、稲作のためには、コンバインやトラクター等の大規模な機材が必要でありそれらの経費が掛かりすぎるため、県や市からストップがかかった。国が認める所得の基準を満たすためには15町歩の面積を耕作する必要があるとのことで現実的に難しい。県と市が野菜を進めるのは小規模で経営が安定するからであり、米の利益は低く新規就農者に大規模農家になってもらうのは無理だと思う。</p> <p>○新規就農者を受入れるための入口の制度は充実してきているが、新規就農者が途中でリタイアしてしまう。それは販売先の問題なので、今後は販売の方に力を入れていく必要があると思う。</p> <p>◎ブランド化や販路開拓は前から考えているが、行政や農協が主導したから上手くいくものではなく、農家の方と一緒に知恵を絞りながら進めていかないと上手くいかないと考えているので様々意見をいただきながら進めていきたい。</p> <p>○新規就農者には手厚く保証をしてほしい。始めたばかりでは、収入も低いと思うので平均収入程度は保障できるようにしてほしい。</p>	第2 第2 第2		
	6 遊休農地	<p>○山間部は耕作条件も悪く、後継者も減っており耕作放棄地が増えてきている。耕作放棄地を解消するにしても、田だったところは田として、畑だったところは畑として耕作していくことが必要ではないかと思っている。鳥獣被害が多発・拡大してきており、個人での対策だけでは難しいので皆で協力して有効な対策を講じていかなければ、作物が荒らされるだけになってしまう。集積と合わせて地域での話し合いが必要になってくるのではないかと考えている。</p> <p>○遊休農地の解消が果たして地域のためになるのか。不在地主の土地が増えてきて、だれが作るのかという問題がある。無理に遊休農地を耕作可能な農地にするのではなく、もともと林だったところを開墾した農地については耕作者がいなくなった場合元の林に戻すという考えがあってもよいのではないか。親の後を継ぐ予定のない人に農家をやれとは言えないのではないか。まずは不在地主の問題をどうするかというのを考えていかなければならないのではないか。</p> <p>○遊休農地解消のために既存の農家に耕作してもらおうとの話だが、今後規模拡大していくのは無理ではないか。自分のような野菜農家は、今耕作している面積で手一杯だし、米農家さんであれば機械に経費が掛かりすぎたり、人手不足になったりと様々な要因で規模拡大ができないのではないかと思う。遊休農地の解消を考えるのであれば、機械代や人件費の2～3割程度補助するような制度を作らなければ、既存の農家がどんどん辞めていくという事態になると思う。規模拡大を推奨するのであれば、それに係る経費の補助もセットにしなければならないのではないか。土地への補助だけでは間に合わないと思う。今後は、経営規模に応じた補助がなければ今後の農業は衰退していくとの認識を持ってほしい。大きい農家さんを守らなければ耕作放棄地はこれからどんどん増えていくと思うので、国や県に要望をしてほしい。</p>	第2		

項目	種別	発言要旨	ブロック	担当課	備考
要望・意見	6 遊休農地	○遊休農地解消のために農地を借りて無理に規模拡大をしたとしても、今まで耕作していた作物の品質に影響が出てしまっは意味がないので、遊休農地対策にかける予算をもう少し有効な使い方があるのではないかと考えている。 例えば新規就農者に対する補助であったり、輸出に対する補助にしたりと考えれば様々あるのではないかと。	第2		
	7 補助制度	○新規就農者だけでなく、中堅で長く続けてきた農家にも目を向けてほしい。	第2		
	8 生産調整	○減反廃止の影響もあり米価が低迷している。米沢は稲作の依存度が高く、今後の農業経営への打撃が心配。米に代わるものとして、他の作物をトライ&エラーで模索している。戦略作物や振興作物等の交付金が出る、出ないで大きな差があり、その他の新たな作物にチャレンジしようにもやりにくい。新たな取り組みに助成できないか。助成条件はレポート等の提出として、新たな転作作物を探す情報を収集する等、行政で対応できないか。 ◎あと10年もすれば農家はかなり減る。農地の受け手が心配。他の地区はどうか。収入が安定しないので、まず兼業農家が減るのが第一弾。国が支援するにも対応が遅い。	第1		
	9 飼料用作物	○飼料用米等（飼料作物）からのカメムシ等の被害が相変わらずだ。 ◎防除、除草等するよう指導しているが…。	第1		
	10 10年後の経営ビジョン	○田んぼから野菜中心に変えてやっていく。 ○今まで以上に本業の畜産に更に力を入れていく。 ○水稻をまだまだ増やしたい。10年後設備等を増やしていきたいと考えている。 ○周辺の人たちも農家が少なく、若者が少なくなっている。 ○今は稲作中心が多いが、収益のある作物（枝豆、キュウリ等）を増やしていく。ICT化やスマート農業を取り入れながら効率化を進めていくと思われる。集積は進んでいるが、集約が課題となっているため、行政と協力しながら進めていくことが大事。 ○家族経営で数年前から経営拡大を順調に進めている。しかし、10年後となると親も引退し、規模拡大はきびしく、現状維持に変わると思う。 ○地域でも離農する方が増えてきている一方で、田や畑を増やしていきたいと思う人が増えるとは思えない。個人でできるのは限界があると考えている。 ○規模拡大はひとりで何とかなるものではないので、支援などを期待したい。 ○継承をどうしていくかが大切。後継者がいないため、スムーズな継承が困難となっている。地区の集落で集団（法人）を作り、集落農業を発展させて農業をしている方もいる。しかし「個人の農業を大きくする思いが強い人」が多いように感じる。人・農地プランの話し合いに参加したが、せっかく良い話が出たとしても、個人で畑が欲しいと動く人がいる。地区をまたいだ賃貸など、効率の悪いことを繰り返している。将来を見据えた時にどうしたらいいか、真剣に話し合う必要がある。役所も相対だからしかたないと容認することがあり、残念に思う。そういうことがないよう、進めていく必要がある。 ○自分の周り地域の中で次は誰が担っていくか。将来のビジョンの共有「私は辞めたい、私はしっかりやっていきたい」と、自分の意志を示し、お互いの意思の確認から始めていくことが大事。農業委員も地域の中に入って一緒に考えていきたいと思っている。	第3		

項 目	種別	発言要旨	ブ ロ ック	担当課	備 考
要望・意見	10 10年後 の経営ビ ジョン	<p>○4地区といってもそれぞれ広いため、それぞれの事業があると思う。各地域集り、ざっくばらんに話し合っ、現状と将来のビジョンを和やかな雰囲気を出すことによって将来像が見えてくると思う。</p> <p>○家族経営でも集積には限界がある。生産法人などの団体を作って、知恵を出し合うことも一つの経営だと思う。広幡・成島地区にも団体があり、地域のチームワークを使って、若い人が少なくても上手くやっていると見ている。そうすることによって将来像が見えてくると思う。農業委員としても力になっていきたい。</p> <p>○私の住んでいる地域も後継者がいない。新たに機械を入れて作るのは難しい。土地改良のされていない未整備の土地は誰もやりたがらない。遊休農地が増えていってしまう。そうすると、ますます後継者が育たなくなると思っている。10年後を見据えるためには若い人が挑戦してみたいと思えるような農業ができるよう、農業に対する後押しや土地の整備が必要と思っている。</p> <p>○人手不足については、家族を伝えて友人同士での手伝いをお願いしている人が結構いる。コロナウイルスの影響で会社が休みの人が多い。家族だけでは人手不足なので、お金以外でも農作物でお願いするなど、いろいろな手法がある。仲間を見つけていくことが大事だと思う。</p> <p>○未整理地は手間が掛かるし、地区をまたげば移動距離が長くなる。やはり地元で農地を管理していくことが基本だと思う。地域にあったビジョンを立ち上げてしっかりやっついていかないといけない。米沢らしい経営ビジョンをつくる必要がある。自分がやれる部分、お願いする部分をお互いに話し合いをしながら進めていく必要がある。</p> <p>○私の考えているビジョンは、米沢牛ブランドは全国区でどこでも通用する。置賜地域で牛を育ててブランドを推進していけば、牛を2,000頭育てたいという人も出てくると思う。九州では、法人化して山を2つ(約5,000坪)購入し、畜舎を任せる人を育て、牛300頭を育てている畜舎を5つも経営しているところが2~3件ある。大きなビジョンを持つことは大切である。大きなビジョンは一方通行ではなく、皆で方向性を煮詰めながら進めていくことが大事と思っている。</p> <p>○地区をまたいだ取引があるために集約がうまくいかない。「自分たちの集落は自分たちで守る」といってもそれが弊害となっている。各地区に法人があり、稲作+αの経営、規模拡大を行っている。家族経営では限りがあるので、そのようなものに目を向けてみても良いのではないかと。</p> <p>○集約化については、当初、コンバインを3台程購入して共同で使用し、周辺に拡げていければと思っていたが、集落の中で共同化を進める方が良いとなったので、水田の集約化にはいたらなかった。</p> <p>県法人協会によると、県内には農業法人が200以上ある。自分の目指せるものに近い法人があるはず。私はいろんな事例を勉強した。今の若い人は、農業青年部に入らない人も多いと聞くが、人脈を広くして、参考事例としていろいろ見てくるのも良いかと思う。</p> <p>水稲としての集約は、先代がいてなかなか土地を譲らない状況もあるため、農業委員側から説得するような動きがあれば、進んでいくのではないかと思う。</p> <p>どうなっていくのかではなく、自分でどうしていきたいかと考えていかないと、前に進まないと思う。</p>	第3		

項目	種別	発言要旨	ブロック	担当課	備考
要望・意見	1 1 地域農業	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地区を何とかしたいと思うが、個人経営を頑張りつつ、地区のことを考えていきたい。 ・若い人はそこまで考えていないため、フランクな話を続けて農業を続けていくという思いを確認していければ良いと思う。 	第3		
	1 2 有害鳥獣	<p>○有害鳥獣について、ワナを仕掛けて捕まえたとしても、処分を考えていかないと。</p> <p>◎築沢のほうで捕まえたものは、現在は食肉として自家消費している。それでも消費しきれず冷凍庫もいっぱい状態だ。上郷の長手地区でもたくさん捕まえたら対応が大変となる。これまでは山で捕まえて運搬してきて処分しているが、今後は山でそのまま埋設する方向で考えている。食肉として市場にて取り扱うには処理施設が必要となる。</p> <p>○今年の秋に初めてイノシシやクマの肉を農林課から提供してもらって、調理のレシピを少しずつ作っている。残念なのは施設がないので流通できないこと。ちなみにイノシシやクマの臭みや硬さは調理で何とかするが、多少の慣れは必要かなと思う。他県の流通させた食肉は手に入るが、米沢牛並みに高い。</p> <p>○雑木林が増えてきているため、街中にも鳥獣被害が及んでいるのではないかと考えている。土地の所有者だけではなく地域で協力して、そういった雑木林を分断していくことで鳥獣被害の拡大を防ぐことができるのではないかと。</p> <p>○林業をしている人が片手で数えられるほど減ってきている。山に餌がない影響で、熊が街中に出没しているのではないかと。</p> <p>○有害鳥獣の被害があって何とかしたい。</p> <p>⇒山上地区など市内にも対策に積極的に取り組んでいるところがある。話を聞いてみるといい。</p> <p>⇒広幡地区では、コロナ禍で遅れたが、今後、研修会などを開催して勉強していきたいと考えている。</p> <p>◎有害鳥獣については、農業委員会の皆さんにも狩猟免許を取っていただいて、鳥獣対策の担い手になっていただきたい。市では、新規狩猟者への支援も行っており、毎年7～8人が資格を取得して猟友会に入って活躍していただいています。山上地区の研修と合わせて取り組みについて検討していただいて、今後とも鳥獣対策についてもご協力いただきたいと思います。</p>	第2 第3		